

2026 年 7 月 7 日

選手(人)を知る力 指導者の原点

林 但

本日から始まった第 108 回全国高校野球選手権神奈川大会(朝日新聞社、県高校野球連盟主催)に出場するチームの監督に「高校時代のポジション」を尋ねたところ、回答した 136 人のうち、捕手が 28 人で最も多かった(20.6%)。「扇の要」といわれる捕手を経験してきた監督たちに、「捕手のリーダー論」を聞いた。(朝日新聞 7 月 5 日 朝刊)

私も会社勤務時代、事業所の野球部に所属、関東地方の事業所を中心の大会や異業種の方との全国大会や横浜区民大会に出るチームであった。ある日捕手の方が家庭の事情で突然やめられたため監督から急遽捕手をやれと言われ 2 年位やったことがあります。面白かったが、チームの投手の球は速いが荒れ球で大変苦労をしたことを思い出しました。今回の記事で、**日大藤沢 山本秀明監督の「個性に合わせて声掛け」**に関する記事を読んで野球でも、スポーツ推進委員関係でも通ずることが多いと感じています。

山本さんは社会人野球の三菱自動車川崎に入団されました。23 歳の時、都市対抗野球大会で補強選手として加入した名捕手に出会いました。「配球を教えてほしい」とお願いすると、「配球は教えられない。でも、なぜその一球だったのかは全ての場面で説明できる」と言われました。それまでの山本さんは、打者が嫌がる球を並べればいいと思っていました。でも、「それは打者にも分かる配球だ」と教わりました。大事なのは打者ではなく、まずは投手を知ることでした。

同じ球でも、投手によって精度や力む場面も違います。投手に合わせて配球を変えたり、声をかけたりすることが捕手の役割だと知りました。山本さんはその経験は、今の監督という仕事に生きていると言われています。選手も一人ひとり違います。同じ言葉をかけたときに伝わる子もいれば、伝わらない子もいます。

だからまずは選手(相手)をよく見る。その上で何に悩み、どう声をかければ力を発揮できるのかを考えておられ選手(人)を知る力 指導者の原点あるとのこと。私も協議会の活動や学区体育振興会行事他でその人の持っている能力や特技、現在の体調、どうすればこの人に響くか他いろいろ考えてお願いしています。試行錯誤の日々です。自分と未来は変えられるが、他人と過去は変えられないとも言われます。相手に響く言葉を考える日々でもあります。

以上